

(様式1)

作成日 平成 29 年 9 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200320		
法人名	メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム南観音ひまわり		
所在地	広島市西区南観音6丁目3-31 (電話) 082-295-3717		
自己評価作成日	平成29年8月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200320-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200320-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年9月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

交通の利便性がよく、平地に建てられたグループホームである。散歩、買物も行きやすく、便利でありながら、比較的静かな環境の中に建てられたグループホームである。母体は医療法人であり、入居者の方の体調管理など連携を取りながら行っている。入居前の生活をイメージして、グループホームに入居しても継続できる事は、出来る限り続けて頂けるように支援している。季節に応じた外出や好みにあった外食行事などを計画、実施している。地域行事への参加を積極的に作っている。近隣施設とも交流を持ち互いの行事（お祭り）に参加し交流を深めている。また、ご家族様には毎月お手紙と、面会時にはカルテに目を通して頂き、何かあればその都度連絡を行いながら、入居者様と一緒に支える体制づくりを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は市街地の中心部にあり、周囲をスーパーマーケットなど商店も多く立地する閑静な住宅街にて運営されている。事業所は地域とのかかわりに力を入れており、近隣の地域行事にも事業所全体として参加している。また、母体である医療法人と連携し、利用者の体調管理に努める体制ができているほか、法人が違う近隣の事業所とも交流し、サービスの向上に努めている。その結果、入居前の利用者の生活の継続を重視し、季節に応じた行事や外出活動に力を入れている。さらに、利用者の家族とのコミュニケーションを重視し、遠方で面会に来られない家族にも毎月近況を報告する手紙を出すほか、家族面会時には利用者の記録に目を通してもらうなど、家族と協力して利用者のサービス向上に取り組むことを目指している事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を毎朝、朝礼時に唱和することにより理念を意識し日々、利用者に関わる際にケアに反映させている。	毎年職員アンケートを実施し、1年に1回、職員同士で「このようなことに力を入れていこう」という目標を考えている。理念は経営母体医療法人の方針と、事業所運営法人の方針のほか、介護職員基本姿勢10則を作成し、職員間で意識付けを継続し、日々のケアに反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事には積極的に参加している。他施設の行事や地域の行事など、積極的に参加して交流をはかっている。	近隣で行われる夏祭りには事業所として手伝いを行い、利用者も参加することで地域の中での一体感を感じてもらっている。また、近隣の他事業所の運営推進会議に出席するなど、事業所全体として地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループホームの新聞を活用し認知症の理解や支援方法を伝えている。人材育成のために実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催。家族、入居者、町内会長等参加をお願いし、情報交換を行っている。家族会などの行事の際は内容について報告し、意見をもらうようにしている。	運営推進会議には地域の役員や家族をはじめ、多くの情報交換を行っている。消防署職員が参加した時には、避難訓練を見てもらうことでアドバイスをもらい、実際の訓練に役立てることができた。また、家族会の行事内容に対する意見など、多くの意見を事業所運営に反映させている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市の主催する研修にできる限り参加するようにしている。行政に分からないことは問い合わせし理解に努めている。	市とは、地域包括支援センターを通じて「いきいき100歳体操」「認知症応援団」などの事業に協力することで市の事業との連携がとられている。また、法人グループ全体として市当局者への現状の課題について意見交換を行うなど、積極的に意見具申している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>関連法人グループにて年に2回の身体拘束に関する研修をおこなっている。利用者が外に出ようとされる様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して支えるようにしている。</p>	<p>法人グループ全体として身体拘束防止に関する研修会を行っており、参加できない職員はDVDでの鑑賞を行っている。また、法人グループ全体でサービス向上委員会があり、事業所内の教育について徹底を図られている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>関連法人グループにて年に2回の虐待に関する研修をおこなっている。入浴時は全身観察しささいな変化にも目を配っている。目上の方に対する言葉遣いを心がけ、虐待にあたるであろう行為に意識しながら関わらせていただいている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>関連法人内の勉強会に参加し権利擁護に関する内容を学び意識している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>管理者、職員を交えて説明をおこなっている。細かい部分についても事前に説明し有無の確認をしている。リスクマネジメント、苦情、要望については対応方法を文章で説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>施設入口に意見箱を設置している。話やすい雰囲気作りを心がけ、意見や要望があれば書類にし全体カンファレンス、サービス向上委員会にて話し合い原因究明、再発防止に努めている。</p>	<p>運営推進会議で出た家族からの意見をもとに、家族会の内容を工夫するなど反映しているほか、利用者の近況を家族に手紙で伝えるなど、家族と情報交換をしている。また、利用者の希望をふまえて外出やドライブに出かけるなど、積極的に利用者や家族の意見を反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度は必ず全体カンファレンスをおこなっている。欠席者については事前に書類参加にて意見を出してもらっている。カンファレンスの内容については迅速に書類にして回覧している。</p>	<p>職員からは、利用者への対応方法の提案や、歩いてもらうケアの実践、行事の中の細かな提案など、日頃からミーティングなどの場を通じて意見を求めている。また、意見は必要に応じてホーム長会議、法人上層部の会議などで検討されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年に2回人事考課を実施している。反省や個人目標について面接をおこなっている。職員の間関係、個別に抱える問題を把握し対応している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設外の研修に参加した場合は報告書を作成し他職員にフィードバックしている。また、施設内の研修に参加できない場合はDVDを作成し全員が参加できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修の機会を増やし、同業者との交流をはかりながら良い取り組みや情報については積極的に取り入れるよう努力している。また、他施設との交流の場を作る為、行事を計画、実施している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居者様の生活状況などを把握している。入居者様の訴えを可能な限り傾聴し、ご本人が求めていることや不安を理解しようと努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>面会時に入居者様の日常生活や生活行動記録を見ていただきグループホームでその方に応じた日常生活を安心して過ごしていただける様に寄り添い支え職員で共有している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族様の希望されていることを知るためにも連絡、報告をこまめにおこない、考え、想いを理解し可能な限り対応するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>個人の尊厳を尊重し信頼関係を深めている。生活上のお手伝いを行うだけではなく料理や畑仕事等教わる部分も多く、ともに支えあう関係を意識している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人の状況、ホーム内外での出来事、行事のご案内など毎月1度は介護記録に目を通していただけるようにしている。ご本人の誕生日には家族の方に相談し一緒にお祝いができるよう工夫している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人、家族様のご意向をお聞きしている。馴染みの方の面会などをお願いしている。</p>	<p>利用者がそれまで通っていた作業所の行事に参加したり、以前からつながりのある友人に来てもらったり依頼している。また、食通の利用者と一緒にレストランに行くなど、本人がそれまで大事にしてきた馴染みの関係を継続する支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>気の合う入居者様と共に過ごして頂ける様にしている。グループレクや個人レク又はボランティアによる集団レクリエーション（歌、折り紙等）を一人一人に合わせ関わりを支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退去後についても本人、家族の意向を確認しながら相談の上、同法人全体でバックアップしている。実際、看取り後にも他入居者様の顔を見に来る為に足しげくホームに来られる家族様あり。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一人一人に日々寄り添いながらコミュニケーションをはかっている。細かな内容もしっかりと受け止め意思疎通が困難な方にはご家族様も含めた意向の把握に努め情報収集を行っている。</p>	<p>利用者の普段の会話をよく聞いたうえで、家族にも問い合わせて情報収集を行っている。利用者本人の思いを重視したセンター方式のアセスメントツールを使用することで、本人本位に検討がなされ、その結果利用者が落ち着かれるなどの効果が出ている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご本人、ご家族様、ケアマネージャーなど本人をよく知る人から情報をもらいグループホームでの生活につなげている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>一人一人の過ごし方は行動、言動、体調管理の記録をこまめにおこない職員間で把握している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>1か月～3か月ごとに見直しをおこなっている。こまめにカンファレンスを実施し入居者様のニーズにマッチした計画を立てている。また、ご家族様のご意見、ご要望を反映させるように努めている。</p>	<p>介護計画は1～3か月ごとに見直しが行われ、職員がチームで評価し、再度介護計画の練り直しが行われている。また、家族からも随時情報を聞き、取り入れるような工夫がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>各個人の記録ファイルがあり本人様の発言、行動記録、ケアプランに添ったケアの実践その日の職員間での気付きを記録、報告しカンファレンスにて活用し活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人の状態や家族の意向に配慮しながら臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員や町内会長、民生委員に参加していただき周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間～1か月に一回定期受診を行っており、主治医には経過を報告している。必要に応じて家族の方にも受診の付き添いをお願いしている。</p>	<p>定期受診は事業所の車を使用し行っている。また、半年に1回健康診断を行っているほか、緊急時には法人グループの病院に事業所対応で受診してもらっている。さらに、歯科の訪問診療も実施している。なお、かかりつけ医の選択は自由であり、家族対応で受診してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日頃から介護職員と看護職員との関係を密にしながら日頃の健康管理や医療面での相談、対応を行い変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。またご家族とも回復状況等の情報交換しながら退院支援につなげている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>本人、家族のご意向を踏まえ、主治医、看護職との連携をとり対応できるケアについて説明を行っている。現在、2名の入居様様の看取り介護をさせていただいている。</p>	<p>本人や家族の意向をふまえ、医師や看護師と連携を取りながら、「看取り計画」を作成し、医師が説明し同意を書面で取り付けている。往診も受け入れ、関係者とともにチームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応についてマニュアルはあるが、応急処置の訓練は行っていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルを作成し、消防職員、家族様の立会いの避難訓練を年に一度おこなっている。また、夜間想定、日勤想定、職員、入居様の訓練を毎月おこなっている。</p>	<p>毎月、自衛消防訓練を実施し消防署に提出しているほか、夜間想定、スモークマシンや消火器を使用した立ち会い訓練なども実施し、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけるべく努力している。</p>	<p>これまでの地域住民との関係性を活かし、事業所の備蓄や避難場所としての利便性を中心に、地域との協力関係を構築することで、より事業所と地域が密な防災協力体制が構築できることが期待される。</p>



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の気持ちを大切に考えてさりげない声掛けでケアを心がけたり、出来るかぎり分かりやすい言葉や選択肢を用意して自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	利用者への声掛けの際は、排泄に関する事など、プライバシーに関する事は声高に言わないように注意し合っている。また、着る服も自己決定してもらうように声掛けを工夫したり、対応方法について法人全体でも勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	些細なことでも複数の選択肢を提案して一人一人の利用者様が自己決定できる場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の体調に配慮しその日、その時の本人の気持ちを尊重してそれに合わせた対応を心がけている。外出、買い物、散歩など個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己決定がしにくい利用様には職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援を心掛けている。訪問美容で希望に沿った毛染めやカットをしてもらうよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け、片づけ、配膳等、個々でできる事を職員と行っている。食事も職員を交え同じテーブルで楽しく食事ができる雰囲気大切にしている。	食材の盛り付けや、食器を並べたり、包丁を使用するのも手伝ってもらうなど、料理の準備に利用者にかかわってもらっている。事業所で3食とも調理しており、出来立てを食べることができるほか、外食の実施、畑で新鮮な野菜を育てるなど、食事を楽しんでもらう工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一日を通して手作りによるバランスの良い食事を提供し職員間で把握している。また一人一人に合わせた食事形態、アレルギーに対応した食事を提供している。必要に応じて主治医に相談し対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行っている。ご自身で出来る方に声掛けをしそうでない方には介助にて実施している。また必要に応じて歯科往診を依頼し指導をしていただきながら適切なケアをしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>お一人お一人の排泄リズムを行動やしぐさで確認している。食前、食後以外にも様子観察、見守りしてなるべく自立した排泄をしていただけるように支援している。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握し、行動やしぐさによって誘導をしているほか、なるべくトイレに座って排泄をしてもらうために、誘導の時間も工夫している。その結果、オムツをして入居された利用者が、オムツが外れるなどの改善例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便の確認を行っている。便秘気味の方には食事、水分に注意し体操やレク等を取り入れている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日勤帯ではあるが、本人のタイミングで入浴して頂くようにしている。冬季は脱衣所の温度に注意している。季節を感じてもらうためにゆず湯なども行っている。</p>	<p>入浴は基本的に2～3日に1回のペースだが、利用者の希望があれば入浴日以外にも入れるようになっている。また、浴室内も広く、介助を受けるのに支障がないほか、浴室や脱衣場の清潔感も保たれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングにソファや本人のリクライニング等を置き、休息できるようにしている。居室で過ごす方には自分の時間も大切にしている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が把握できるよう表を作っている。日付け、名前を2重3重に確認して服用していただき変更があればその都度、更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の楽しみごとを聞き、好きなことをして頂いている。役割についても分担して無理なくしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	地域の行事参加や季節に応じた外出を計画している。また、当日であっても気分転換に散歩やドライブに出かけたり希望があれば買い物と一緒にいけるように支援している。	事業所に外出や通院のための専用の車を一台用意しており、障害者用のシートが可動式のものである。季節に応じてドライブや散歩、外食や温泉など、利用者が戸外に出られるような工夫がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人、ご家族の希望があれば財布を金庫でお預かりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望があれば電話できるようにしている。年末には、年賀状を家族、友人に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間は窓を開け換気を行いその後、空調管理に努めている。リビングへは季節の花を生け花にし飾っている。また、季節が分かるような壁画、作品等にも努めている。</p>	<p>共有空間は採光や風通しも良く、広いベランダにはアサガオが植えられ、なごみの空間となっている。また、リビングの畳スペースには、季節に応じてひな人形も飾られる。ソファや椅子も天然木を使用するなど、利用者が気持ちよく過ごしてもらえるような配慮がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングテレビ前にソファを置いたり廊下にも椅子を配置し談話スペースを作っている。事務所前にも椅子を置いて職員とも談話しやすい環境を作っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にはご家族様にはたんす、椅子、テレビや写真など使い慣れた物を持参していただくようお願いしている。何か不便な事ができれば家族様に相談し持参できるものはして頂きまたは購入し過ごしやすい環境作りをしている。</p>	<p>利用者の居室には専用の洗面台が設置され、車いすでも使用できるように設計されている。また、部屋によって壁紙の色を変えたり、利用者の好きな家具を持ち込めるなど、居心地よく過ごせるような居室の配慮がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>人に尋ねることなく自らで分かりやすいようにトイレの場所に札をつけている。生活空間の工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム南観音ひまわり

作成日 平成29年10月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域の方々との防災協力体制が構築できていない。	地域と方々との防災協力体制を構築していく。	運営推進会議などで備蓄品の試食会の開催。事業所を避難場所として活用する。	1 2 カ月以内
2	4	運営推進会議への参加ご家族が少ない。また、同じご家族ばかりの参加が多い。	参加して頂く増やす。他ご家族にも参加して頂けるようにする。	家族会、面会時にご案内する。会議での内容を参加しやすい内容にする。	1 2 カ月以内
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。